

国際会計論B		講義	教授 安藤 鋭也	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの専門 選択科目 会計ファイナンスコースの 専門選択科目 教職科目	科目ナンバリング	23220210 23220210 25320207	

1. 授業のねらい・概要

この授業では、IFRS 会計基準（IFRS Accounting Standards）を中心に学修します。IFRS 会計基準を適用（または適用を決定）している日本企業は 302 社です（2025 年 12 月末現在）。IFRS 会計基準は海外でも、米国を除く多くの国で適用されています。今や「世界の共通言語」である IFRS 会計基準を、出来るだけ分かりやすく丁寧に説明します。

後期の国際会計論Bでは、IFRS 会計基準の個別の基準・日本基準および米国会計基準との主な相違点を学修します（前期の国際会計論Aでは、IFRS 会計基準の学び方・基礎知識・概要を学修します）。

注）IFRS 会計基準は、従来、国際財務報告基準（International Financial Reporting Standards）と称されてきました。2021 年 11 月に国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）が設立されたことを受けて、ISSB が公表する IFRS サステナビリティ開示基準と国際会計基準審議会（IASB）が公表する基準とを区別するために IASB が発行する基準および適用指針は、IFRS 会計基準と総称されることになりました。

受講にあたっては、「会計学基礎」「会計学総論」並びに「財務会計論B」を履修していることが望ましいです。

2. 授業の進め方

テキストの内容に沿った講義形式を基本とします。同時に、新聞・雑誌などから具体的な事象を取り上げます。いずれにおいても、皆さんの積極的な参加を心から歓迎します。

3. 授業計画

1. ガイダンス、国際会計論Aの振り返り	9. 同章 IFRS 会計基準の概要(14)外貨換算など
2. 第3章 IFRS 会計基準の概要(7)売買目的で保有する非流動資産、リース	10. 同章 IFRS 会計基準の概要(15)セグメント情報など
3. 同章 IFRS 会計基準の概要(8)引当金	11. 同章 IFRS 会計基準の概要(16)後発事象など
4. 同章 IFRS 会計基準の概要(9)ストックオプション	12. 同章 IFRS 会計基準の概要(17)初度適用など
5. 同章 IFRS 会計基準の概要(10)金融商品	13. 日本基準との主な相違点
6. 同章 IFRS 会計基準の概要(11)法人所得税	14. 米国会計基準との主な相違点
7. 同章 IFRS 会計基準の概要(12)企業結合	15. まとめ
8. 同章 IFRS 会計基準の概要(13)連結・持分法	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回テキストの該当箇所を事前に読んできて下さい（30 分程度）。また学修内容の定着には復習が不可欠です。前回の授業内容は、配布資料も使って理解に努めて下さい（1 時間程度）。もし不明点や疑問点があれば、メールや次回の授業で遠慮なく質問して下さい。一緒に考えましょう。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際は、解答例および配点案を試験終了直後に配布します。

6. 授業における学修の到達目標

IFRS 会計基準の基本的な考え方を理解した上で、IFRS 会計基準を巡る国際的な動向の概要を把握することが目標です。

7. 成績評価の方法・基準

平常点 50%（授業への取り組み姿勢など）および期末テストの結果 50%の割合で成績評価を行います。

8. テキスト・参考文献

テキストは、橋本尚・山田義隆（2025）『IFRS 会計学基本テキスト（第8版）』中央経済社を使用します。本テキストは改訂される可能性があります。授業では最新版を使用します。参考文献は適宜紹介します。

9. 受講上の留意事項

受講にあたっては、会計の基礎知識を有している方が望ましいです。前期同様、IFRS 会計基準を理解してもらえるよう、出来るだけ分かりやすく丁寧に説明します。

一方で授業は積み上げ、内容的にはAとBでワンセットです。したがって通年で毎回出席されることをお勧めします。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当します。本授業は、総合商社における経理パーソンとしての実務経験および屋外作業機器メーカーにおける社外監査役としての実務経験も活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおりです。